シリーズ人権教育　第１２２回

男性にとっての

男女共同参画



　男女共同参画というと多くの人が、「それは女性のためのもの」と感じるかもしれませんが、男性にとっても重要な問題です。

　例えば、こんな経験はないでしょうか。「男は弱音を吐くべきでない」との思いから、悩み事を誰にも相談できずにいた。

　「男性だから」という意識が、個人にとっても、社会全体にとっても、重荷になっていることがあるのではないでしょうか。

　女性が「女性は家事・育児」といった固定的性別役割分担意識によって、社会進出をはばまれてきたということはよく言われますが、男性も、「男は仕事」、「男は強くなければならない」など性別による役割の固定化を受けてきたと言えます。

仕事の担い手、家庭の担い手の変化

　平成９年以降は共働きの世帯数が片働き（男性雇用者と無業の妻）世帯数を上回っています。共働き世帯は増加傾向にあり、男女ともに働く家族形態が一般的になりつつあります。

　背景として、女性の社会進出に対する意識変化や、経済情勢の変化などがあると言われています。

　一方、男性の長時間労働は相変わらず多く、労働時間について、男女の二極化がみられます。男性は長時間で働く人が多く、女性は短時間で働く人が多くなっています。

　また、高齢化の進展に伴い、介護を理由に転職・離職した人数は、男女ともに増加傾向にあります。

労働時間（週）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 女性 | 男性 |
| 短時間（～33時間） | 51％ | 2％ |
| 中時間（34～45時間） | 34％ | 33％ |
| 長時間（46時間～） | 15％ | 65％ |

心の病、命の危険

　自殺者は近年増加傾向にありますが、男性の増加が顕著であり、自殺数の増加は男性の問題としてとらえられています。

　自殺者の約７０％が男性（平成２１年）です。

　男女ともに「健康問題」が自殺の原因となることが多いのですが、４０代５０代の男性では「経済・生活問題」が「健康問題」の件数を上回っています。男性は、経済問題や生活に関する問題で悩みが生じやすいと考えられます。

　男性自身の、男性に関する「固定的性別役割分担意識」を解消できれば、男性がより暮らしやすくなる社会を築いていけるのではないでしょうか。

　そのような社会では、多様な生き方が尊重され、女性も、より活躍できるのではないでしょうか。

【参考資料】内閣府ホームページ